

「小さな地区連で身近な話し合い活動！」

京都府 京丹波町農業委員会 瑞穂地区梅田連絡会議

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	19人
○ 農地利用最適化推進委員：	20人
○ 事務局職員：	2人
○ 市町村行政との連携状況：	毎月1回

町担当者（農林振興課）と事務局、現地推進役で調整会議開催



2 地区の特徴、状況、課題

（市町村の概要）京都府のほぼ中央部に位置する京丹波町は、3町が合併して誕生。人口約1万3千人、面積は、303.09km²。古くから交通の要衝として栄え、比較的交通環境に恵まれた地域である。

（地区の概要）町の西部に位置し、国道9号が東西に由良川源流の土師川が南北に縦断する山間に農地が散在する中山間地域である。

（地区の課題）町全体に共通する課題であるが、高齢化と人口減少による農業離れから農業就業人口が大幅に減少。零細・兼業農家が大半を占め、将来の農地保全に大きな不安がある。



3 委員による継続した話し合いの取組内容

地区の現状に危機感を抱いた農業委員、最適化推進委員が、地区の農家組合長(8名)、集落営農組織(1)、地区内の農業法人(1)に呼びかけ、①地域の現状把握のためのアンケート調査を実施後、②調査結果の分析、③京力農場プランの策定及び実質化に向けた話し合いを定期的に開催。

集落営農組織の今後に向けて、「法人化」を視野に入れた検討を行うとともに、既存の農業法人に「研修生の導入」も含め、後継者確保に向けた協議を進めることを確認。

農地法に定める「農地利用状況調査」も毎年、農業委員・最適化推進委員・農家組合長が連携・協力して行うことにより現状把握と情報共有に繋げている。

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- ①現状確認による地域内農業関係者の課題の共有が出来た。
- ②アンケート結果の分析により、解決すべき優先課題の抽出を行うことが出来た。
- ③実質化の過程で、地図に耕作者の年代別色付けを行ったことにより、対策の方向付けを行うことが出来た。
- ④地区連を小学校区単位としたことで、現状・課題・解決に向けた方向性など身近な話し合いが出来た。